地域・コミュニティ活動助成

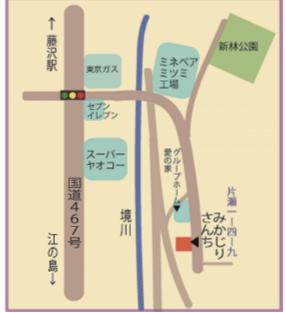
NPO法人 湘南まぜこぜ計画

神奈川県藤沢市

「空き家活用×コミュニティ再生」による持続可能な 町内会とNPOの新しい関係性の構築







団体設立経緯

子どもたちの日常に、学校でも家でもない居場所が必要となっていると感じた有志が、2016年藤沢市朝日町で「寺子屋ハウス」を開設。学習・食事支援のほか、個別課題にも対応してきました。

子育て世帯を孤立させず地域の 誰もが集える、より多くの居場所を 持続的に運営できる仕組みづくり を、様々な団体や行政と協力して進 めるために、また、若者世代と実践 を共有、課題解決に共に当たるため に、NPO法人として団体を設立しま した。

活動概要と活動対象範囲

地域で空洞化していくコミュニティ 再生の拠点として、空き家を活用し た寺子屋型居場所と、高齢者・子育 て世代まぜこぜの居場所を、月に5日 限定で運営しています。 不登校生な どへの個別学習を、高校生らが別に 実施。市内の農家が毎週届けてくれ る、その日の朝に収穫した野菜販売 も大好評で、口コミや町内会回覧で 浸透しています。

今年度から、町内会費の一部を 運営に充てることも決定し、NPO と町内会協働の新しい地域コミュニ ティ再生モデルとして行政、企業か らの視察も増えています。

活動に至った理由や背景

それまで町内でラジオ体操や防災訓練などに活用していた唯一の憩いの広場が、宅地化で閉鎖されました。子ども会も活動停止。近隣の公共施設もない中、当NPO法人と町内会の協働で、空き家を活用した居場所づくりを模索してきました。当法人代表が町内会副会長を長年務め、共同代表は地元小学生が通う放課後児童クラブ長であるという立場を生かし、地域から担い手となる人材を発掘、協働を進めることができました。実績を示すことで、町内会費の活用にも理解を得られました。

活動内容と成果

●お茶飲み友だちの居間と縁側

地域の居場所「みかじりさんち」は、2020年10月に開設に漕ぎ着けるまで、10年ほど空き家でした。町内で活用できる空き家を探していたとき、この家で高校生まで過ごし今は東京に暮らす御姉妹が、ときおり風を通し掃除をしに訪れていたところに声をかけたのが始まりです。中を拝見すると、晩年1人暮らしをされていたお母さまの丁寧な暮らしぶり





(上)10年ほど空き家になっていた1軒屋を借りて、地域の拠点として整備、運営する (下)近所の女性が主に集まる「お茶飲み友だちの居間と縁側|の日

が偲ばれる落ち着いた佇まい。地域 のコミュニティに活用したい旨をお話 しすると、御姉妹そろって喜んで貸し てくださることになりました。

開設して誰よりも感激されたのは、かつてそのお母さまと親しくしていた、向かいで1人暮らしをする87歳の女性です。かつての三ケ尻邸の変わらぬ屋内の様子を懐かしみ、数十年と遡る物語を、驚くほどの記憶力で毎回お話してくれるようになりました。1日誰とも喋らない日もあったという彼女を筆頭に、徐々に1人暮らしの女性たちを中心に、毎回のお喋り、お茶菓子などを楽しみに常連組が形成されていきました。

こたつから1日出ないで過ごすと話していた別の女性は、「毎日歩いている」と話す87歳女性に影響され、毎日散歩をするようになりました。近所のグループホーム職員を招いて話を聞けば、皆で質問攻めにする。毎回パンを持って隣町から差し入れに寄ってくれる、「鎌倉ベーカリー」のおじさんとの昭和世代のお喋りにも、笑い声が絶えません。

民生委員や社会福祉協議会の ソーシャルワーカーもお喋りに来て、 最近会えないでいる近所の高齢者 の様子を皆から情報収集していき ます。ちょっと覗きに来た、市の空 き家活用に頭を悩ます担当課長は、 すっかり先輩女性陣に諭されて、課 題を実感できた様子でした。

2020年4月の開設予定がコロナ禍で10月にずれ込み、町内会への案内チラシの回覧は年明けとなってしまいました。それより先に口コミで広がった「お茶飲み友だちの居間と縁側」は、来られる方々にはなくてはならない日常になりつつあります。

●かたせ寺子屋ハウス

朝日町で運営している「寺子屋ハウス」のノウハウを引き継いだ、第2の寺子屋ハウスとしての日もあります。子どもたちが集まってくるのに、時間はかかりませんでした。こちらも口コミ。町内会のラジオ体操や花火大会などに来ていた子たちは、最初から我が物顔です。駄菓子屋があれば、友達を誘うのにも困りません。駄菓子だけ買いに来る子も、次第に部屋

16 2020年度 住まいとコミュニティづくり活動助成 -- 般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団 17





まで入ってきてくつろぎ始めます。学

校でも家でもない。先生でも親でも

ない大人が迎えます。宿題持ってお

いでとは言いますが、無理強いはし

ません。自分らしく過ごすのが寺子

屋ハウスだからです。次第に子ども

たちは、学校の事、家庭の事も話し

大人は遊ぶときには遠慮しませ

ん。「大人気ない!」と子どもが訴えて

くれば、勝負ありです。そんな子ど

もたちの相手をする管理人は3人い

ます。1人は当法人の27歳になる共

同代表で、地元小学生が通う放課

後児童クラブ長を勤めます。もう1人

は同じく27歳のその妻で、小学校の

始めます。

で、すぐに管理人として参加をお願 いしたのでした。

彼女の手ほどきで、普段はゲーム 大好きで、寺子屋の看板なども一緒 に描いてくれています。

●子どもたちの個別課題

市内遠方から遥々やってくる中学 「みかじりさんち」の庭が大のお気に

小学生当時から勉強が苦手で、

ばかりしている男子たちが、スタン プハンコづくりや廃材を使ったアート 作品に真剣になっているのは貴重な 時間です。女子たちも絵を描くのが

生男子は、みんなと一緒に遊ぶより 入りです。そのお母さんは「お茶飲 み友だち」の日の管理人であり、将 来は地元で居場所を開きたいと法人 メンバーに加わりました。2人一緒に 来ては、庭の手入れを黙々と楽しみ、 荒れた一角を開墾して1人で畑にジャ

以前から個別に学習支援してきた中 学生女子は、勉強への意欲が上昇 中。そんな彼女に勉強を教えてくれ



そして、町内の周辺地域からも、 幼児連れのお母さんや家族連れが 駄菓子を買いに来て、縁側で遊んで いく光景も増えました。のぼり旗を 目印に、誰でも参加OKなのです。

●野菜販売が大好評! わくわく が始まる場所に

1. 縁側での 「駄

菓子屋 | に集まる子どもたち

2. 持ってきた宿題に取り組む 3. 「寺子

ハウスにたどり着きました。もう1人

の不登校生と、2人の中学生を見て

また町内で、ご両親が亡くなって

困っているという大学生兄妹のご家

庭には、フードバンクから寺子屋に

提供される食糧を届けています。い

つでもSOSが受け止められるように、

今回の助成で実現したハード面で

の最大の成果は、縁側の改修です。

子どもたちとのDIY準備のために、

当法人メンバーが職人から学びなが

ら改修工事に着手しました。傷みの

激しい床板のみ全面張り替える予定

だったのが、柱2本も根元部分をシ

ロアリにやられていることが発覚。

施工範囲は拡大しましたが、シロア

リを駆除して柱の付け替えができた

すっかりきれいになった縁側では、

寝転がって日向ぼっこする子もいれ

ば、みんなで「だるまさんが転んだ」

をやるのが最近の流行りです。裸足

で走り回っても怪我をしないように、

のはむしろ幸いでした。

板の隙間も塞ぎました。

静かに見守っています。

●縁側改修の成果

くれています。

屋ハウス」がオープン中 4. 法人のメンバーが 改修した縁側。画像は活動を紹介するチラシ

縁側工事を請け負ってくれた職人 のお義父さんが、市内で農家を営ん でいました。販売先がコロナの影響 などで減っていることや、形の悪い ものを捨てるのはもったいないとの 話から、「みかじりさんち」ガレージ で野菜の無人販売をやろう!との話 がすぐにまとまりました。高齢者が 重たい野菜を買えるのは、家族が車 で買い物に連れて行ってくれる時な どに限られます。「お茶飲み友だち」 の皆さんにとって、すぐ近所で野菜 を買える喜びは思った以上に大きい ことがわかりました。

初回、お試しで軽トラに山盛り積 んだ野菜を持ち込んで、あれこれ品 定めする女性たちとの軽妙な駆け引 きが始まると、聞いていてなんとも 面白く。朝収穫された無農薬の野菜 なら、無人販売でも売れるだろうと 考えていたのですが、お義父さんに とっては、立派に育った自慢の野菜 たちを、あれこれ注釈しながら対面 で売ることが何より楽しい様子でし た。手応えを感じたのか、毎週、軽 トラでやって来て対面で販売してくだ さることになったのです。

立派な野菜たちが、週替わりに季 節を運んできます。どれも100円かせ いぜい200円。みなさん、袋からあ

ふれるほど野菜を買って家路に向か う後ろ姿が、なんとも微笑ましい光 景となります。

年が明けてから、町内会の回覧 で野菜販売の案内を入れると、初め てのお客さんも増えてきました。そ の方々に「みかじりさんち」を紹介す るチラシを差し上げている次第です。

女性たちの次なる一手は、フリー マーケット開催のようですが、果たし てどうなることでしょう。とにかく楽 しいことを企画すれば、次はこんな 企画を「みかじりさんち」でやりたい! と、あちこちから話が来ることでしょ う。そこから管理人が増えていけば、 「みかじりさんち」を開ける日にちも増 やしていけると期待しています。

課題と解決方策

基本的に利用料をいただかずに 運営しており、家賃の負担をどうす るかは大きな課題です。2階建ての 1軒屋を1棟借りしているため、それ なりの支出があります。2021年度か らは町内会からの補助金が確定し たので、他には任意の賛助金を1口 月500円程度から集めて様子を見て いくことにしました。

また今年度は、管理人への謝礼 を当助成事業から1日につき2000円 支出してきました。今後もわずかで も謝礼が出せるようにしたいので、 藤沢市の助成事業に申請する予定 です。並行して、民間の助成金も申 請を検討しています。また、2階を民 泊にするなど、収益事業を実施する かも思案中です。大家さんはこの事 業に賛同して、寺子屋の子どもたち

また、建物前の市道の交通量が 多く危険なので、これについては町 内会として、管轄の警察署に対応を 求める要望書を提出予定です。

にマンガ本を送ってくださったり、縁

側や庭を自由に使わせてくださいま

すが、家賃についての相談も必要と

なるかも知れません。

今後の予定

昨年度、近隣の中学校のPTA役 員が見学に来て、中学校内にも居 場所をつくろうと構想し始めました。 それを受けて今年度から、当方代表 がPTA本部に参画しています。授業 中に徘徊する生徒や、不登校生徒 の対応に苦慮する学校と協力し、「み かじりさんち」をはじめ他の居場所な どとも連携。学習支援や、地域の 大人との交流事業を展開します。

また、収益事業や家屋改修など に関わるノウハウを専門家から学ぶ ために、鎌倉に拠点を置く民間企 業が運営する「地域未来創造大学 校・次世代まちづくりスクール」に入 校し、勉強を開始しました。

特定非営利活動法人 湘南まぜこぜ計画

2016年4月設立、2018年9月法人化/メンバー数:正会員15人/代表者:原田建(は らだ・たける)

- ●〒251-0032 神奈川県藤沢市片瀬1-3-32
- ₹090-5449-1160 ■terakoya@mazekoze.org

すべての子どもが自分の意思で未来の選択ができる社会へ、誰もが尊厳をもって 共生できるまぜこぜの地域コミュニティを醸成し、一緒に社会課題解決のための 新しいデザインを創造していくことを目的に活動しています。

現役教員です。2人は去年結婚して、 間もなく出産を迎えます。そんな2人 に、子どもたちは遠慮なく質問をぶ つけています。 ガイモを育てています。 残り1人の管理人は中高生の子ど もがいる女性で、近所の子どもたち に詳しく情報網もあるので大変助か

ります。彼女は自宅で絵画教室を開 いていた経験もあり、当法人のホー るのは、先生を志望する高校生です。 ムページを見て連絡をくれたのが 小中学生に勉強を教えたいと、やは きっかけです。偶然ご近所だったの り最近、ホームページを見て寺子屋